

# 入船湯

Irifuneyu  
(東京都中央区)



外観

中央区に入船という地名がある。入船川という川があり、船の往来が盛んだったのであろう。今回紹介するのは中央区入船にある銭湯で、その名も入船湯である。

入船湯はビル銭湯だ。大きなビルの西側正面ではなく、北側に遠慮がちに玄関を構えている。玄関からいきなり階段となり、銭湯は地下にあることがわかる。

靴を脱いで下駄箱に入れ、フロントで湯銭を払う。フロント前にはロビーがあり、ソファや骨董級のマッサージ椅子がある。現在の入船湯は建物としては新しいが、歴史は長いことがわかる。

脱衣室、浴室は一般的な銭湯に比べると少々狭い。確かに、都会のビル銭湯はそれほど大きなキャパシティーは必要ないのかもしれない。洗い場は18か所。銭湯には珍しくリンスインシャンプーとボディーソープが完備している。シャワーブースは2か所あるが、1か所は故障しているようだ。

問題は浴槽である。中央区の入船湯紹介ページには、「少し熱め」と書いてあった。浴槽は浅風呂と深風呂の2つがあり、実際に深風呂が熱めとの表示がある。深風呂に手を入れてみたが、やはりかなり熱い。それではと浅風呂に入ってみたが、これまた熱い。浅風呂と深風呂の湯温の差はわずかである。熱い湯が苦手な私にはかなり酷である。常連客に「熱いですね」と声をかけてみたが、涼しい顔で「そうでもないよ」と返されてしまった。さすがは江戸っ子だ。

浴槽の壁面にはペンキ画の代わりに、「新規造掛永代橋往来繁華佃海沖遠望之図」という

題名の錦絵のレプリカが飾られている。描かれたのは明治 8 年 8 月とのことだ。当時の永代橋付近の賑やかさや、海に浮かぶ船の多さが良くわかる。中には洋装の人もいる。遠くには富士山も描かれている。入船湯らしいセレクトと言えるであろう。

尚、入船湯には、サウナ、水風呂、コインランドリーはない。

実は、本日は特別な理由でこの銭湯に来ていた。これから夜行便で海外出張なのである。1日働いて、そのまま夜行便に乗るのはあまりにつらい。そこで、仕事場の近くの銭湯にやってきたのだ。仕事場の近くの銭湯と言えば、既に銀座湯と湊湯を紹介している（いずれも中央区）。入船湯は、仕事場から徒歩圏内の3軒目の銭湯だ。

中央区のようなオフィス街にもそれなりに銭湯があるものだ。ビジネスマンはもっと銭湯を使うべきであろう。海外出張前の銭湯は、これからの外国における厳しい交渉を忘れさせてくれ、同時に身を引き締めてくれる効果があったように思える。

これで飛行機の中でぐっすり眠れるとよいのだが。

- **名称**：入船湯
- **所在地**：東京都中央区入船 3-16-4
- **電話**：03-3206-0335
- **営業時間**：15：00～23：00
- **定休日**：木曜日
- **入浴料**：大人（12歳以上）460円、中人（6歳以上12歳未満）180円、小人（6歳未満）80円
- **サウナ**：なし
- **サウナ内のテレビ**：なし
- **取材日**：2016年4月5日（火）
- **取材**：銭湯愛好会東京支部